Bブロック全作品と講評

線

同じ空間にいるのに
視線が合わないなんて

「ねじれの位置」

B-2

あなたは知っているだろうか。

最速降下曲線というものを。

ある曲線に沿って物体を転がせば、その物体が一番速く転がり落ちる。

その曲線が最速降下曲線。即ち、サイクロイドである。

これについては色々な逸話が残っている。

昔、ある建築の匠が五重塔の屋根を作ってたとき、

雨水を効率良く凌ぐため微調整を重ねた結果、屋根の形がこの曲線になっていたのだ。

さらに、日本で武家諸法度が発布されていたころ、

西洋では数学者であるヨハン・ベルヌーイが世界中にある問題を提示した。

“最速降下曲線の方程式を求めよ。”

この難問に回答できたのはいわゆる天才数学者。ニュートン、ライプニッツ、ロピタル、

加えて、ヨハン・ベルヌーイの兄であるヤコブ・ベルヌーイの４人だけであった。

このときに変分法と呼ばれる数学道具が発達し、現代の微積分学に大きく貢献している。

だから、君達の今やっているサイクロイドってのは中世の英知と技術の賜物なんだよ。

……といった話を高校のときに某数学教師が皆にしたのを鮮明に覚えている。

もちろん、生徒たちの反応は予想どおりであった。

『よく分かりま線』

横断歩道の
白い線だけ歩くの
すごい楽しい。

ぽとり、と線香の灰が落ちた。

目の前の白い布を被せられた冷たい塊はぴくりとも動かない。薄暗い和室には、時計の秒針の音だけが響いている。古びた振り子時計は、彼女よりも長い時を過ごしてきたのではないか。少なくとも、僕よりは。

僕はふと、小学一年の運動会を思い出した。四十メートル走は直線のトラックだったからスタート地点から彼女の姿が見えた。僕は嬉しくなってしまってゴールを一位で通過してそのまま一直線に彼女の元へ走って行った。彼女は苦笑しながら僕を抱きしめてこう言っていた。

「すごいなぁ。足が速いからあんたはたくさんの場所へ行って、色んなことを見て、いっぱいの気持ちを感じることができるんだねぇ。」

僕は別に特別足が速いわけでもなかったし、地元から出たことすらない。あの頃目の前に広がっていた広い道は、何度も分岐を繰り返して、今では細い線となって足元に伸びている。あの日病院で見た心電図のように、小さくさざ波を描いていてある時直線となって、おしまいなのだろうか。あの時僕は何も感じなかった。タイマーが切れただけのような気がした。バスケの試合で鳴るブザーの方がよっぽど大げさのような気がする。ただモニターに直線が一本伸びていて、それを見て医者が何かを言っていた。僕は真っ白になって動かなくなった皺々の手をじっと見つめていた。

ボーン、と振り子時計が五時を伝えた。

ぽとり、と畳に涙がこぼれ落ちた。

『ばあちゃん』

とうとうヤツと戦わざるを得ない時が来てしまった。

まだまだ先のことだと思っていたのに。

なんとしてもヤツを消さなくてはならないのだ。

もたもたはしていられない。

時が経つにつれヤツは存在感をどんどん大きくしていくから。

どうすればいいんだ。

プロに連絡してみるか…？

いや、ダメだ。

あいつらは初めての客に仕事をしてくれない。

ヤツを消す機械を使ってみるか…？

いや、やめておこう。

効果があるのか怪しすぎる。

何をやったって無駄なのはわかっちゃいる。

時が経てばヤツを受け入れられるようになるだろう。

それでも、今はどんな手を講じてでも

ヤツを消さなくては…

『ほうれい線』

B-6

僕は白線の上を落ちないように歩いていた
日は傾き、オレンジ色に空は染まっていた
どこかのチャイムが反響している
昼から夜へと時間が変わる、この時間が好きだった
（次の角は右だな）
消えた白線の先は自宅とは違う方向を向いている
足を止める
足元には大きな影ができていた
ふと上を見上げると、電線に少女が腰かけていた
こちらを見ているようだが顔は見えない
夕日に染まった服は異様な輝きを放っていた
電線が風に揺られるたびに少女の身体も揺られていた
（目を、合わせたらダメだ）
咄嗟にそう思った
足を右に向ける
一歩をふみだす
しかし目は離れなかった
少女の目は見えなくとも視線が突き刺さるように感じた
ぎょっとして、一歩下がる
すると突然、少女の顔に赤色の模様ができた
真っ赤な口が笑っていた
（あ）
右足を踏み外してしまった
少女は白線をじっと見て笑っている
笑いながらふわりと電線から降りてきた。
その時ちょうど日は沈み、あたりは闇に包まれた
それ以降の記憶はない

君の後ろ、白線は無いかい？

じんせい

線

どんなに遠回りしようとも
どんなに行ったり来たりしようとも
始点と終点は　ただ一つずつしか存在することはない
私が　歩く　この線は　どこへ続いているのだろう

無意識のうちにスタートしてしまったこの線を　どう進むべきなのか
まっすぐでなくてもいい
曲がりくねったほうがいい

ただひたすらに　終点に向かって　歩く

縦の線は一度しか通ってもらえないのに

横の線だけ二度も通ってもらえる

これってなんだか不公平

「あみだくじ」

B-9

僕は子供の頃から線路が好きだった
いろいろな列車を乗せて
いろいろなものを運ぶのを手伝っている
この希望に満ちあふれた世界の
どこまでもどこまでも続く線路
この線路をたどっていけばどこか知らない遠くの場所にも行ける
子供の頃の僕の冒険心をくすぐる線路

でも、大人になって世界は変わってしまった
僕が思っていた以上に世界の色は鮮やかではなかった
でも、それでも線路だけは僕を裏切らない
さあ、僕をどこか知らない遠くの場所に連れて行っておくれ
どこかもっと色鮮やかな世界へと

「プァーーーーン！！！」

僕は線路が大好きだった

『線路に憧れて』

あーーーーーーーーーーーーーーーー！

「勇気をだして好きな子に告白した僕。思いもよらずオッケーをもらい、今度の日曜日に初デートに行くことになった。デート前日の夜、着ていく服を選んだり、行く場所を確認していたりしているうちにいつの間にか午前2時。急いでベッドに入り眠りにつこうとするものの、興奮でなかなか眠りにつけない。焦りも生じ、もう寝ないで朝を迎えようか思った頃にようやくウトウトし始める。そして次に目を覚めた僕が目覚まし時計を見て最初に言った言葉」

視界一杯に広がる水平線を
僕はずっと見ていた

目の前で沈んでいく太陽と同じで
引き込まれるように
僕はずっと見ていた

際限なくからみつくしがらみを全てほどいて
僕と君だけを結びつけてくれるような
その赤く染まる一本の水平線を
ずっと……見ていた

『水平線』

あの日描いた
腕の「線」は
今日もまだ、
消えない

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	線香花火	5 pt	8 位	1 sp
		ひそかにブームの線香花火くん、今週の表紙を飾りました。 どどーんと派手な打ち上げ系に比べて、どうせおれらはモブキャラさ、みたいないじけっぷりが、花火という「消えもの」の儚さとなじんで、余白に語らせるいい表紙です。 特別賞：川柳賞（響きがよかったから）		
A02	無題（時の神）	3 pt	10 位	2 sp
		時の神、という架空の存在を設定することで、宇宙的・神話的スケールの壮大さで、時の流れの不可逆性という大テーマに挑んだ意欲作でした。「神である」の爽快な断言が、みんなのお気に入りフレーズになったようで何より。 特別賞：EXILE TRIVE賞（EXILEっぽいから（適当）） 芥川賞（文学を感じる。今後の執筆活動に期待したい） イチオシフレーズ：「我らは神である。」「凡人など支配してしかるべきなのだ。」「我らは神である。凡人など支配してしかるべきなのだ。」		
A03	カモメの独り言	7 pt	4 位	0 sp
		わあん、これじゃカモメくんが、かわいそすぎ。 ひたすらひたすらまっすぐ行けば、きっといつかは辿り着く……わけではないのさ。ヨコヨミがみごとにアンサーになってます。 イチオシフレーズ：「地きゆうはまルい」		
A04	無題（恋の特急）	10 pt	2 位	0 sp
		さわやかにスタートしたな、と思いきや。 えっ、そう来るのというラストの「まっしぐら」の意外性でした。 みんな、電車止めるのやめよう！ じゃなくて、これを、みんな恋愛しようぜと読み替えればいいのか、なるほど。おめでとうシルバーメダル!! イチオシフレーズ：「恋の天国まっしぐら」×３		
A05	直線の苦悩	0 pt	12 位	1 sp
		カンペキゆえに評価してもらえないホンモノ直線くんの嘆きキャラがしっかり立ってます。ラスト、かくれんぼしてたら、誰にも見つけてもらえなくなっちゃったような気分でした。 特別賞：頭良いで賞〔直線の定義がぱっとわからない。） イチオシフレーズ：「誰か僕を見つけてください」「僕は完璧だ」		

A06	やたらと線の細い君	6 pt	7 位	1 sp
		ハイスクール・ラブ、入ります。 タバコなど小道具使いもじょうずで、緻密な描写で彼女との関係性がリアルに立ち上げられて、ナイスストーリー。 欲を言えば、タイトル、もっとロマンティックに響かせたかったか。 特別賞：健康に気をつけま賞（たばこは二十歳になってから。体に悪いからやめましょう） イチオシフレーズ：「両切りピース」		
A07	合格ボーダーライン	7 pt	4 位	1 sp
		ボーダーラインの気持ちになってみた。 やさしいね。上でなく、下の方を見て気遣ってくれてるんだと、ほっこり。 特別賞：相澤賞（発想が良い）		
A08	y=1/X（あの子は双曲線）	3 pt	10 位	3 sp
		喜ぶ/落ち込むという擬人化表現が楽しくて、しかも僕の恋は報われない。短いのに、なかなか策士な理系ネタでした。 特別賞：対賞性（みたまんまです） 12よりはしょぼかったで賞（かぶってた） 理系賞（理系っぽさが出ててよかった。12とダブル受賞）		
A09	焼肉	8 pt	3 位	0 sp
		一幕のコントのような。掛け合いが軽快で、おかげで光景が目に見えるような愉快な仕上がりです。 お茶目な赤外線君、グッジョブ。みごとブロンズメダルです、おめでとう！		
A10	半径友達メートル	4 pt	9 位	3 sp
		ラストのカタカナセリフにせつなさが滲みます。 そう、壮大なる勘違い。許した、許されたと思ってたのは、ただの友達メートル。 関係性を「距離」で表現した技が成功しています。 特別賞：近すぎで賞（10?は近い） タイトル賞（タイトルがいいから） 10?でも十分近いで賞（そもそも近いのが気になる）		
A11	そしてみんないなくなった	7 pt	4 位	3 sp
		甘い甘いベタベタ関係から、一転して襲うビリビリビリの悲劇。フォントを変えつつ、コミカルにシーンの転換が表現されて、タイトルも秀逸。 インパクト大の展開で、イチオシフレーズ大賞受賞です、おめでとう！ 特別賞：つめが甘い賞（文章の最後が題名と同じフォント） 勢いがあるで賞（かつてない勢いがいい!!!!） 使いふるされたで賞（みあきたから） イチオシフレーズ：「そしてみんないなくなった」「ぐわあああああああ」×２「切り取り線「ぐわあああああああ」」「僕「手で切ってしまえ…」」		
A12	漸近線	31 pt	1 位	0 sp
		ラストはしっとりと。 こんなに近くにいるのに、永遠に交わることはない。そのもどかしさ、せつなさが、漸近線という硬質なたとえかたとともに具体的な距離感として伝わってきます。		

		わかるわかるとフロアの共感を一挙に引き寄せ、圧勝のゴールドメダルと輝きました。おめでとう!!! 特別賞：理系賞（理系っぽさが出ててよかった。8とダブル受賞）

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
B01	ねじれの位置	13 pt	3 位	1 sp
		視線を合わせたいのに合わない、というもどかしさ。でもまあ、満員電車なんかでは、合ったら逆に困るよね。 いろんな状況を想像させる、ふくらみのある表紙でした。共感を誘ってのブロンズメダルです、おめでとう！ 特別賞：コミュ障（あ、あの……なんで、受賞した、あっあっ、理由は……です。はい）		
B02	よく分かりま線	17 pt	1 位	1 sp
		最速降下曲線、入ります。 なるほど五重の塔ね、と分かりやすいたとえに納得しつつ、クラスのなかでひとりだけ高校教師の話に感応したから自分の今がある、というような自分史としても読めたり。実話かな？ 理系蘊蓄が共感を集めて、硬い話題なのに、みごと壇上ゴールドメダル＆今週のイチオシフレーズ大賞です、おめでとう!!! 特別賞：タイトルが言いたかっただけで賞（タイトルがおもしろいから） イチオシフレーズ：「よく分かりま線」×５「最速降下曲線」		
B03	幸せの積み重ね	12 pt	4 位	2 sp
		あるある感満載。やったよね、子どもの頃。ほんのり郷愁を誘うインパクト大の仕上がりでした。 特別賞：人生楽しんでるで賞（楽しそうだから） 賞（そう）だね（そうだねとしかいいようがない）		
B04	ばあちゃん	15 pt	2 位	0 sp
		別れの悲しさを思い出とともに。 心電図の描写が、人の命の終わりを具体的に表現して、とてもリアルに感じ取れます。振り子時計、グッジョブ。 ストーリーにしっかり浸って貰えてのシルバーメダルです、おめでとう!! イチオシフレーズ：「ボーン」		
B05	ほうれい線	3 pt	8 位	0 sp
		じつは、けっこう出ましたほうれい線ネタ。 戦ってもムダと分かっていても、やっぱりすぐには受け入れられない。揺れるおばさんゴコロを揺れる表現で巧みに再現していただきました。		

		おかあさんに見つからないようにね☆		
B06	「白線」の上	3 pt	8 位	2 sp
		たそがれどきに妖魔が一体。まっかな口で笑ったら、もうあなたはあやかしの術に堕ちて、異世界の住人。 色彩描写があざやかです。で、彼はこのあとどうなった？ B-1班がみごとに謎を解いて暮れました。 特別賞：こりすぎ賞（謎、わかんない） よく分かりま線賞（哲学っぽい） イチオシフレーズ：「僕は消えた 少女は君の後ろ」		
B07	線（じんせい）	2 pt	11 位	1 sp
		表紙に置いても似合いそうなきれいなレイアウトとフォントで、まっすぐに人生を表現していただきました。 特別賞：いいで賞（いやーうん、いいんだよ。） イチオシフレーズ：「私が歩くこの線はどこへ続いているのだろう」		
B08	あみだくじ	3 pt	8 位	2 sp
		けっこう出ました、あみだくじネタ。 やっぱりセンケイダイスウとかより身近なんですね。たくさん通ってもらえるとうれしいな、という線のキモチになったところがユニーク着眼です。 特別賞：よく考えま賞（よく考えたら違うかも？） なるほど賞（なるほど！ってなるため）		
B09	線路に憧れて	9 pt	5 位	0 sp
		だから、電車を止めないでってば！！！ プァーーーーンの響きが悲しすぎるラストでした。たんたんとした回顧口調から、まさかのプァーーーーン。読者をびっくりさせる技、ナイスです。 イチオシフレーズ：「プァーーーーン！！！」×４		
B10	あーーーーーーーーーー！（タイトル省略）	6 pt	6 位	4 sp
		絶望感が炸裂してますね。同じ叫びでも背景事情は悲喜こもごも。長い長い事情説明が、本文とのおもしろいバランスを醸し出しています。 インパクトで最多特別賞を攫いました。おめでとう！ 特別賞：タイトル長いで賞（タイトルが長いのが気に入ったから） 朝は早く起きま賞（線ということばを使わずにここに並んでいてすごい） 次は頑張りま賞（初々しい） だめ男賞（こんな人はだめだ。絶対に付き合いたくないな。By毒舌女子×２） イチオシフレーズ： 「あーーーーーーーーーー！」×２		
		6 pt	6 位	0 sp
		しがらみをほどいて、赤い糸だけを結びたい。二つの動作に収斂させた、とてもきれいな風景で		

B11	水平線	す。 ほんとはこれが、キレイに終わろうコンセプトの裏表紙だったんですよ。でもTAさんのたくらみで……		
B12	無題（腕の「線」）	1 pt	12 位	2 sp
		りすとかっと、ですよね？ 消えない跡を眺めつつ、何を思うのか。悔恨か、それとも乗り越え得たほろ苦さか……いろんな想像を誘います。やさしいB-6班（じつは作者さん所属）のみなさんに、ひたすら心配されちゃいましたよ。 でもって、なぜこれがラストなのかは、とある食べ物名前のTAさんを問い詰めてくださいな。 特別賞：心配で賞（とにかくひたすら心配です！！） メンヘラで賞（マジメンヘラ）		